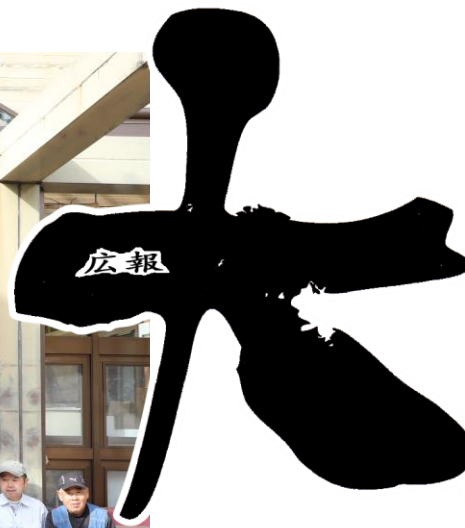


令和3年1月
第414号



12/13 注連縄づくり



お
お



12/20(日)
「門松作り」
注連縄と門松完成しました

おもな内容

- ・大湫コミ会長新年のご挨拶 …p2
- ・大湫公民館長新年のご挨拶 …p3
- ・丑年生まれ …p4~6
- ・大杉に感謝する吊いの火祭り
について …p7
- ・大湫のミライ総合計画プロジェクト …p8~9

謹賀新年

明けましておめでとうございます。町民の皆さま方におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が発生し、感染拡大防止のため町内行事の大多数を中止するという事態になりました。また、七月の豪雨は、私たちの町にとって忘れることのできない悪夢とも思われる出来事、「大杉の倒木」という被害が発生してしまいました。町のシンボル、心の拠り所を失ったことは大きな悲しみ、痛手ではありますが「生あるものは必ず死あり」と言います。

過去は戻ってまいりません。現実を受け止め、今後をどうするかを考えていくことが必要と、「神明大杉再

生検討会議」を立ち上げ復興対策の議論を続けております。

今年から具体的に保存活用に取り掛かることとなります。

倒木後すぐ若ものたちが復興に向けた行動を始められました。倒木の翌日には大杉の写真を収集する大杉応援サイトを立ち上げ倒木前の貴重な写真の収集を、資金調達のためには「クラウドファンディング」を立ち上げるなど。私達には思いつかない新しいことに挑戦してくれました。

小さな町が抱えた大きな事件、この事件が新たな町民意識の高揚、特に若手町民の人達に今までにない動きが起きてきたことは今後の町の活動の原動力になると確信しました。

大湫の将来を見据えた「大湫町総合振興計画」も令和二年度中に策定できる運びとなっております。

大湫町が存続していくために、地域の将来像を地域に暮らす皆で共有し、効果的なまちづくりを進める道標としていくものであります

将来を見据えて、今何が必要か、何を行うべきかを考え、今後のまちづくりを進めて行かなければなりません。

何時終息するかわからないコロナ過、大きな課題に立ち向かう大変な年となると思いますが、力を合わせ団結して課題解決に立ち向かおうではありませんか。

本年が皆様にとって明るい幸せな年になりますよう祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

大湫町コミュニティ推進協議

会長 小栗 司



新年のご挨拶 牛歩でも前へ

公民館館長 渡邊弘一

新年明けましておめでとうござい
ます。皆様方におかれましてはど
ん
な
お正月をおむかえでしょうか。

昨年は、春先からの新型コロナウ
イルス禍の中、公民館活動も多大な
影響を受けました。

前半は、活動らしい活動は行えま
せんでしたが、そんな中にあっても
「明るく楽しく集える公民館」活動
を目指し、殆ど新人の職員三人で知
恵を出し合い情報入手とニーズの把
握に努めました。

そうした中、令和元年度に、4人
の赤ちゃんが誕生していること、従
来は一回講座中心であったこと、費
用負担も考慮したいこと等々のヒン
ト・方向性が見えてきました。

その結果、三密回避・館内飲食禁

止の新ルールのもと、「親子ヨガ教室」

(3回 和室定員七組)「お菓子教室」

(3回 調理室定員六名)「大湫宿を

知り尽くそう」(2回 講堂・宿内探

訪定員一五名)の新形態の講座開設

(一〇〜一二月)に繋がりました。

今後は、引続き伝統を継承する公
民館事業とともに、参加頂いた方々
のご意見・感想に耳を傾けより多く
のニーズに答えられる講座などの企
画にも、未だ微力な公民館職員一同
ですが、取り巻く環境を注視しつつ、
力を合わせて努めてゆ
きたいと思えます。

本年も皆様方のご理
解とご協力をお願い致
しますとともに、皆様
方にとりまして佳き年
となりますよう心より



お祈り申し上げます。

年賀状展を開催したいと思います。

展示してもよい年賀状がありましたら、1月20日(水)

までに公民館までお願いします。

よろしくお願いします。



丑年生まれ



笑顔あふれる年でありますように

大竹 悦子

60才の丑年の誕生日には、牛に曳かれて善光寺参りに行きました。何十年かに一度の御開帳で、本尊さまの指の先から出される光が一本の糸を通して表にある柱に届くようになっており、その光を両手でいただいてきました。

偉い尼さまの『お数珠頂戴』の儀式にも遭遇でき、数珠からの有り難い光も頂戴しました。その御利益と周りの方々を支えのお陰で、昨年迄、勤め・講習・ボランティア等々カレンダーに予定の書き込みがびっしり、ありがたい日々を過ごさせていただきました。

昨年、小さな盆地にも予期せぬ事が起

き、コロナ禍での生活に私の心もすっかり折れました。月を重ねる毎に巣ごもりする日が多くなってしまいました。新しい年、私にとっては七回目の始まりです。「ここで奮起しなければいつするの」自分に言い聞かせています。二〇二一年、共に笑顔あふれる年でありますように。

『前向きに』

三戸 由梨奈



新年明けましておめでとunggongざいます。

今年も家族共々よろしくお願い申し上げます。

昨年の今頃はコロナという言葉も知らず、平凡な毎日を過ごしておりました、

それがこの一年の間に、新しい生活様式の毎日に変化しました。不安と我慢の連続ですが、命を守る為の我慢。

自分の命、家族の命、みんなの命。

一人の我慢から数多くの命を救える可能性があるのなら我慢しないわけにはいきません。

世の中には辛い悲しいニュースが絶えません。

こんな世の中でも出来る事、今だから出来る事を見つける事で明るい未来まで心はどうにか保っていかなければいけません。

不安はありますが、前向きな気持ちで一年を過ごしたいと思えます。

笑顔は自然と笑顔をつくりだします。笑顔の輪が広がっていきますように。

最後になりましたが皆様方の幸多き一年である事をお祈り申し上げます。



還暦を迎えて ～高度成長期と私

足又区 手島 敦

昭和三六（1961）年 丑年生まれの私は、今年で還暦となります。

大湫に住み始めてから約30年となりますので、ちょうど人生の半分を大湫の皆様のおかげに人情に触れ過ごして来られた事は、この上のない幸せです。

現代社会が忘れてしまった多くの事を大切に、特に自然に対しての畏敬の念を忘れず、社会や身の回りの生活を他人事とせず、皆で過ごしていくこと、平凡な生活のなかにこそ、幸せがあふれている事をつくづく考えました。

様々な出来事で、不安定な昨今の世の中において、一番大切な”人を思うこと”が、ずっと前からここには当たり前にあ

ります。

三歳から十八歳までの15年間を名古屋の下町で過ごしました。

帰る家もないので故郷は？と訊かれれば”大湫”こそが我が故郷と思つていきます。ただ、少年時代をふりかえれば、戦後の混乱から抜け出したあとの、後期高度成長期を過ごした思い出にあふれています。まだ周りの道は舗装がしていません、あちこちに野原があったり、鉄条網の囲いがしてあり時々引っかけたり怪我をしたり、空き地には大きな土管がたくさんあり格好の遊び場であったことが思いだされます。

当時私の家は中古自動車屋で、スバル中心の店でしたので”てんとう虫”をはじめ、三輪のトラックや観音開きのクラウン、厳つい顔のセドリック、時には下取り車のコーベアなどの外国車もあり、たくさんの車が車置き場にありました。車二台だけ入る小さな修理工場があり、

いつもオイルやガソリン、修復用のパテの強烈な匂いがしていた事を覚えていきます。地方から出てきた若いお兄さん達の従業員さんのオートバイ、確かホンダドリーム250だったと思いますが、後ろにしがみついて東山公園まで乗せてもらい、親父に大目玉を食らった思い出もあります。ちょうど暫く前に上映された「ALWAYS 三丁目の夕日」の鈴木一平くんが私でした。残念ながら不況の煽りで閉店しましたが、今の私が車やオートバイが好きな原点かもしれません。

確かに高度成長期には、文明が発展し便利な世の中になりました。東京オリンピックこそ記憶は定かではありませんが、小学校に入学した昭和四三（1968）年には50人ほどいた先生で車に乗っていたのは教頭先生の赤いコンテッサと担任の酒井恵景先生のブルバード410だけだったのに、六年後卒業する頃には殆どの先生が車に乗っていました。

その後、世の中は、好景気と不況を繰り返して、昭和四五（一九七〇）年の大阪万国博覧会前後には高度成長とは裏腹に公害問題や、ベトナム戦争悪化、学生運動激化、三菱重工ビル爆破、浅間山荘事件、三島由紀夫事件と悪夢のような出来事がつづきました。明らかに人としてのバランスを欠き、人間性が問われる疑心暗鬼な世の中になってしまった。その後、世界のためにか人民の為に革命を起こすといった風潮は少なくなり、広まった個人偏重主義にも辟易としていますが、自然と共生し皆が平和に暮らすことができないかと考え始めるきっかけとなりました。

「美術」「工芸」を通して人の心に通じる、決して激情的でない穏やかな無意識の心を伝えることが自分の使命と考え、おおくの人に伝えてきたつもりです。ちょうど大湫に住む三〇年ほど前からのことです。毎日、お天道様と森、清水に

柏手を合わせるうちに更に考えが深くなりました。大湫の自然に包まれ人々の優しさとおおらかさに触れ、ゆったり時間が流れることで、俯瞰の目でとらえることができました。大湫は私にとってかけがえのない人生を刻んでくださったのです。

神様は時に厳しい日々をお与えになります。試練多い時代になりましたが、皆様が平和で過ごされることを望んで還暦の文章といたします。良い年になりますように。



桐井明子

丑年生まれとの事で白羽の矢が立つてしまった。三十歳を過ぎたあたりから自分の年齢を確認してみると驚く事が多々あり、子供の頃はときめいている事

が毎日のようにあるから時間の流れがなんだろう。

チコちゃんが言っていた。

今は、なんて、なんとも早い。

今年は、特に長い休みも、旅行も、集まりも、町内行事も自粛や中止、オリンピックも延期。動物を飼う人が増えていくそう、癒しが欲しくなるのもうなずける所です。

毎日、思っている事があります。

健康で安全でボケないで穏やかに過ごせますように。それでも中々に毎日何かしらに怒り、反省して悶々として(笑)子供の様に、ときめきもなく、一日一日がとても早い毎日を繰り返していくけれど、少しでも笑って過ごしていける様にしていけたらと思っています。



大杉に感謝する吊いの火祭りに

ついで

大湫大杉を応援する若手有志の会 棚橋哲夫

11月28日夕方4時から翌日5時まで大杉に感謝する吊いの火祭りを開催しました。子供連れで見えた方、年配の方など、93名の方にご参加いただきました。

7月11日に突然倒れた大杉に対して、これまで次の世代に受け継ぐ場所やモノについて、いろいろな議論がされてきました。その中で、多くの方に、大杉に対する想いが強くあることがわかりました。

50年後の大湫を考えた時、場所やモノだけではただそこにあるだけになってしまふような気がしました。施設整備だけではなく、今までの大杉に対する想いを伝えることが必要なことではないかと考え、今回の火祭りを企画すること

になりました。来年度以降も引き続き行いたいと考えています。

来場していただいた方には将来への願い、大杉への想いを、短冊に書いていただき、大杉の使えなくなった端材を、それぞれの想いで火に投げ入れてもらいました。短冊は大湫コミュニティに1月まで掲示していますので寄られた際は御覧ください。1月17日のどんど焼きに燃やす予定です。

今回の運営について、若手有志の会メンバー以外にも作業を手伝ってくれた大湫町若手の方や、テントなどの備品を貸していただいた大湫町コミュニティ推進協議会、ぜんざいを提供していただいた集まるう会、自家製の甘酒を提供していただいた清涯荘、企画サポートしていただいた(一社)サステナ、大釜を貸していただいた天猷寺、多くの



方が、快く協力をしてくださいました。ありがとうございました。

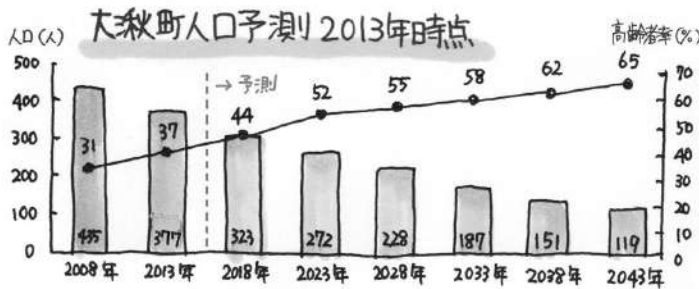


みんなで作る

大湫のミライ 総合計画プロジェクト 2020

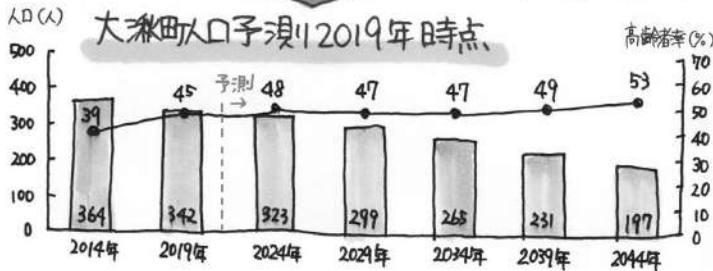
大湫町が大湫町として30年後も存続していること

このグラフは過去の国勢調査データから30年後の大湫町の人口と人口に対して65歳以上の人が何%いるのか予測を出したものです。



2013年時点で30年後の2043年では人口が377人→119人に減り、人口に対して65歳以上の人が37%→65%へと高齢化すると予測が出てきました。

転入対策の取り組みで人口推移に変化がありました。



2019年時点では近年の転入対策の効果があり、移住者の転入や子どもの増加などで2013年時点より減少はゆるやかになっています。

何もしなければ「人口減少と高齢化」が進み続け、町が維持できなくなってしまう。

総合計画での30年後の目標は「大湫町が大湫町として存続すること」を掲げて、これから地域づくりに取り組みます。

この大前提の上で大湫町に暮らす住民が「人」「自然」「歴史」「まち」に親しみをもち、住民同士の繋がりが文化を大切にして暮らしている姿を目指します。

大湫総合計画で目指す10年後の地域の将来像

大湫町に暮らす私たち住民の幸福度が高まることのために地域づくりに取り組みます。

当プロジェクトは令和2年度夢づくり地域交付金(ステップアップ事業)に採択され、大湫町コミュニティ推進協議会が管理運営する事業です。実施は一般社団法人サステナに一部業務を委託します。

大湫町内の企業へ訪問しました

総合計画策定事業の一貫として、大湫町内の企業5社に訪問し、企業の現状や今後の方向性と大湫町の今後について意見交換を行いました。地域内の重要な雇用の場である5社と今後も健全な関係性を保ち続けられるよう、総合計画に反映させていきます。



東濃ブローラー

タカビィンゲーム

大杉吊いの火祭りを開催しました

11月28日(土)16時～翌朝5時まで神明神社の境内にて「大杉吊いの火祭り」を開催しました。大杉が倒れて5か月以上経ち住民の心の整理と、大杉の鎮魂を目的に開催しました。

93名の方に参加いただき、親子連れの方からは「いままでありがとう」「これからもよろしく」という祈りの声を聞きました。開催にあたり多くの方にご協力いただき、ありがとうございました。



今後の予定

1・2月に計画書を取りまとめ、全戸へ西配布します。

新型コロナウイルス対策などに充分注意し、状況によってはスケジュールの変更をすることがあります。

クラウドファンディング 目標達成の報告とお礼



10月15日から行ってきました、大杉被災復興に向けたクラウドファンディングが12月20日に終了しました。支援総額6,676,000円、支援者287人という結果となり、当初、設定しておりました500万円を大きく上回る支援額となり、目標を達成することができました。（銀行振り込みの関係で支援額は増える可能性があります。）

事業所にチラシを持って伺いましたが、協力を快く受けてもらうことができました。また、区長会を中心として大湫町の方々にも協力を呼び掛けていただきました。各事業所ではチラシを置いていただきました。瑞浪市の協力により市内全世帯へチラシを届けることができました。

大杉が多くの方に今もなお、愛されている証拠だと実感しました。

集まった支援額は返礼品作成費等を差し引き、大湫町へ寄付させていただきます。

クラウドファンディングにご協力をいただきました、すべての方に感謝します。ありがとうございました。

大湫大杉を応援する若手有志の会
(発起人)

園原麻友実・棚橋哲夫・玉川幸枝・田村啓

今回クラウドファンディング実施にあたり、発起人以外の町内外の13名の若手と、多くの方々に協力していただきこのプロジェクトが達成しました。

大杉の素材を使ってヴァイオリンを作ります。

大杉保存再生会議からの報告

12/18 大杉大枝の先端部の切り出しを行い、中部楽器技術専門学校へ搬出しました。今後、同学校講師の池尻雅博氏と学生により、大杉の材料からヴァイオリンが作られ、大湫町に奉納される予定です。制作には乾燥を含めて4～5年ほどかかる見通しです。

奉納後には同専門学校の生徒や、紹介いただいた奏者により大杉を使った演奏会を開催したいと考えています。

池尻雅博氏・・・池尻弦楽器工房にて夫婦による楽器制作を行う。都内専門店で修理者として働いた後、イタリアのクレモナに留学し7年間修行。



天野裕夫さんから彫刻作成の提案がされました。

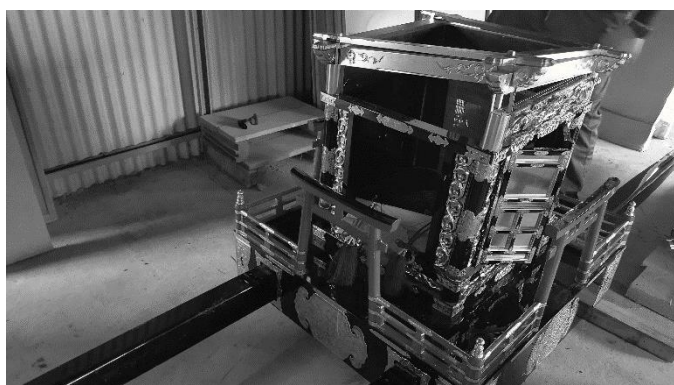
大杉の素材を利用し、彫刻作品を作成したい旨の提案が会にされました。作品は7m程度の大きなウサギで、作品の中に人が入ることができたり、作品に触れることで大杉を身近に感じる作品となる予定です。試作品として60cmの作品が丸森に展示されていますのでぜひご覧いただき、ご意見をお寄せください。1月まで展示、募集します。

ご意見をお寄せください！



被災した神輿・太鼓・篠笛の修理事業を文化庁へ要望しました。

大杉倒木により破損した神輿の修理と太鼓、篠笛の買い替えを来年行いたいと思っています。太鼓は大杉の素材を使った太鼓とする予定です。



「ミクロの来訪者の中で」

山口清重



ら朝日が昇りはじめ。朝霧のたちこめた木曾川の幻想的な景色を見ながら付知川の三本松に着くが、早い時にはすでに数人が暗闇のなかで焚火などして夜の明けるのを

法螺話で過ごすのだ。

水面下の鮎が見えるようになると、我先にお気にいりの場所に陣取る。早朝に陣取るのはベテランぞろいだ。日が昇りはじめの頃から川の緑が賑やかになる。「川の縁だって」そうこの頃は面倒な鮎の友釣りなんか止めた。落ち鮎は雌の鮎を追いかけて雄が群れになって追掛ける。この群れの中に針を放りこんで引っ掛けるのだ。

ところが水深2〜3mの底に泳いでいる千里眼の鮎には錘も針も見え見えだ。数十匹の群れだから簡単に引っ掛けれると思いきや、ドボンと錘が水面に落ちると3mほどの円形が水中に見える。

錘を落としたところから鮎が逃げるために、黒い群れが逃げ



たあと水中の石ころが見えるためだ。周囲の山々の自然林が紅葉しホウノキの葉が落ちかけるようになると「又来年会いましょう」といって付知川から一斉に退院するのだ。

日本名Ⅱスギ 学名ⅡCryptomeria japonica

大杉の千数百年を生きてきた杉の木が倒潰した。わが国に自生するスギは一種類だが、北は秋田スギから南の屋久スギまで地方の名前が付いたものが多い。中部地方の東部のスギは石徹白スギの品種名があり、大湫のスギも石徹白系のスギとしましょう。

長年生き抜いたこのスギには、同居していた植物も多くソヨゴ・コシアブラ・ヤマウルシのような樹木やカヤラン・ヨウラクランなどの珍奇なラン科の植物も着生していた。カヤランは宗昌寺の庭にあるコノテガシワの幹にも着生している。

大スギの樹上15m程の所に15cmぐらいの節穴があって、本体とは違う葉を付けた枝が節穴から生えていた。これは

5年間行われる大湫の動植物調査は、地味な味気ない調査のようですが、他の調査点では観察できない植物が沢山自生しています。できれば毎回とは言いませんが参加しませんか。自然界の一点を知る機会になるはずですよ。雑学を沢山知って今後の大湫の存続に役立てていただくことを期待いたします。

80歳に近くなると時に焦りも感じることもあるが、本人は高齢者ではあるが老人などと思つたことがない。今年の発病は遅く9月の末になってからだ。何のことかと初めて聞く人には解らないだろうが、この持病は夏になると必ず発病するが、10月の終には自然に完治する都合の良い病気なのだ。

この病気は静かに休んでいることができない、早朝3時に起床し4時には出発する。30kmの道程をひたすら走る。木曾川を渡る頃には、東の恵那山辺りか

実生のスギの苗が節穴から生えたものだった。実生といってもすでの10年以上上たっているように思えたが定かではない。

近くの民家の方は、日々大杉と共に生活する中で、倒潰の恐怖もあったと察します。とにかく大きな被害が無かったことは奇跡だった。神明神社新築の時に危険な枯れ枝を切り取るため30mほど大木に登ったことがある。あの大木の幹は壁面に登っている感じだった。瑞浪市文化財審議会で調査の際に多少かたむいた大杉見て、いずれ倒れるかもしれないと話してはいたが、問題視するほどの結論にはならなかった。

あちこちの山野には枯れ木が多く、自動車道路の近くにもマツ・コナラなどの枯れ木も多く何件かの事故も発生している。雨降りの後には水分を含んだ枯れ木が倒潰しやすいので山中を歩くときは注意されたい。

瑞浪市釜戸町白狐温泉(今井屋旅館そば)のヒトツバタゴの大木も数年前に枯死した。

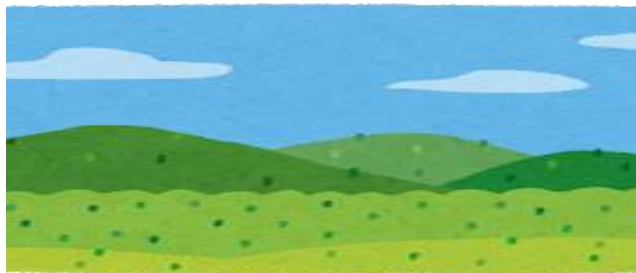
このヒトツバタゴは私がかぎりで、世界一の大木だった。枝は切り落とされたが、本体は直立したまま残されている。ついでに釜戸町神徳の山中にあり秋には見事な紅葉を見ることができ、日本名Ⅱハナノキ(ハナカエデ)学名ⅡAcer pycnanthum が数本自生している。釜戸町の財産区の方から30年ほど前に「天猷寺の山門はハナノキの材で建築されているそうだが原木の産地を知りたい」と連絡があった。

天猷寺が創建されてから約300年、当時の山野の現状を知る資料はなく、現存しているハナノキを調べるとしたら日本最大級の神徳のハナノキだ。ハナノキは実生で生育した場合に、特別のトラブルが無いかぎり直立一本立ちで生育する。神徳の5本のハナノキは過去に1〜2mの根元で伐採されているように株立ちの個体が多い。そのたにも自生株はあるが、古木と思われる株は発見できなかった。

地域の歴史を知るために、渡辺俊典氏等によって編集された瑞浪市史など参

考にされ大湫の歴史を学び今後の大湫計画書を作る上での参考にされたいと思います。

参考資料Ⅱ三好學Ⅱ光迪小学校(現土岐小学校初代校長当時18歳)を努めた。ハノ・ヒトツバタゴ自生地保存に努力された。



釜戸小学校4年生20名より

「ノコギリの使い方」のお礼の手紙が届いています

釜戸小学校4年生に、ノコギリの使い方の指導に行かれた方々、ありがとうございました、ご苦労様でした。お礼の手紙が届きました。公民館に貼ってあります。見て下さい。

住みよい国を作る

チャンス「食」



新型コロナウイルス対策に取り組んでいる中に、年内も残り少なくなってきた。心配しても何もできないが、思いもかけない強いウイルス蔓延に、世界中が恐怖のどん底であえいでいる。降って湧いた様なウイルスに痛めつけられて来た私達人間は、その都度手探りで対応してきた。今回の新型コロナウイルスは極めて強力で、人間が生存出来ない地球になってしまっただけで大変だ。戦争も絶対に起こしてはならないが、人間社会に待ったをかけるウイルスは隙を狙っている。

死に絶えた地球を月に見立ててこれからの暮らしを思うと、目の前が真っ暗になる。生活は年を追って向上し、便利さに満足している反面で、これからの「食料」問題に突き当たる。南米ペルーにインカの遺跡をみる。忽然と消えた現実をこれからの地球の姿を重ねてみる。

異常気象に米を始め小麦・大豆の栽培に警笛をならす学者も多い。遺伝し組み替への農作物が当たり前となる。野菜でもひとつところは国産が求められたが、そんな事を言っていたら食卓に並べる物がなくなってしまう「薬はリスク」と言われる様になってしまった。肉も鶏や豚が病気で食べられず処分している実態を見るが、耐病性の薬品を混入した飼料を使っている。

さて都市と田舎が適正に共存出来る仕組みを行政に求めるが、人の命より経済を優先する事例が多い。都市は、過疎地のためにも、人口を適正に保つのが安心して暮らせる第一条件である。しかし現実にはアンバランスで両者がそれぞれ悩み苦しんでいる。

これからは両者が住みよい環境づくりを始める話し合いをしなくてはならない。後ろ髪を引かれる思いで都落ちする都市住民を受け入れる田舎の住民の温かい気持ちを期待したい。

天野 長三郎

天王様井戸屋根の修復完了

大湫宿内には、八幡様と神明神社・白山神社の三社の他にもう一社「天王神社」がありました。約三百年前の貞亨三年（二六八六）の勸請で、場所は宗昌寺境内の大岩（現在車庫・もと火の見櫓）で東西四間・南北七間の境内地。明治二年に津島神社と名前を変え、今は神明様の末社として大杉の東側中段に祀られています。今も北区の湧き清水を「天王様の井戸」と呼ぶのはそのためです。

町の補助金を使い、北区の方々のご尽力により、屋根の修復が終わり、きれいになりました。



山里の食の楽しみ

講座受講生

「なぜ、コンニャク作りにチャレンジしようと思ったのか」と聞かれ、「そこに、コンニャク芋があったから」と、どこかで聞いた名言のように答える。11月下旬、町の行事である感謝祭の準備のため公民館を訪れると、広場の朝市で、それはそれは立派なコンニャク芋が数個並べられているのが、目に留まりました。

初めて見る芋なので、これがどのような調理過程を経てコンニャクになるのか興味を覚え、市に居た方々に聞いてみるうちに、話がとんとん拍子に進み公民館講座としてウイルス感染防止対策を考慮したうえで「作り方教室」を開催していただく運びとなり、受講生の一人として参加させてもらった。

ふるさと先生から、この芋は、イノシシも食べないほどあくが強く、里芋・ジャガイモなどの様に茹でただけでは食べられないので、これから行う、茹でた

りつぶしたり捏ねるなどの作業に、しっかり手間をかける必要がある等々の説明を受け、さっそく調理開始となりました。昼の休憩の間、播りつぶした芋をじっくりねかせた後の捏ねる作業が、コンニャクの出来具合を大きく左右するポイントですとのアドバイスを受け、20分程力をこめ捏ね上げ、その後炭酸ソーダを全体に馴染むよう手早く混ぜバットに入れ形を作り、たっぷりのお湯の中

へ落とし込みゆがき、コンニャクの形と なってきたら水の中にさらす、出来上がりです。

出来立てを刺身として試食、力を入れしっかりと捏ね

たので、歯ごたえも良く、自画自賛ですが大変おいしく仕上がった。

低カロリーで食物繊維及びカリウム・カルシウムを多く含む大変ヘルシーな食品であることも教わり、コロナ禍で、心ふさがちな年末・年始ですが、バランスの良い食を楽しみ、健康に過ごす事の大切さを、あらためて感じました。

講師の先生方、芋を栽培して下さった方、この企画を開催された公民館の皆様に変感謝しております。ありがとうございました。



12/13 注連縄づくり



こも編み治具を使い、藁をのせ編んでゆく



こもの中に芯藁を入れ縛る



3本に撚りを掛けながら織う



余分な藁を切りきれいに整える



公民館玄関の上に掛ける



しでしめこ
紙垂とメの子を飾る



お疲れ様でした。ありがとうございました。
注連縄づくりをもっと若い人たちにも手伝ってほしい。伝統技術を覚えてほしい。と切に希望されています。

12月の丸森だよ

12月21日現在

12月丸森の企画

- 『丸森の餅花 on 大杉の台座・標柱【大杉再生募金寄付】』（無くなり次第終了）
- 大湫宿インスタグラムキャンペーン【12月15日～2月25日】（回覧チラシ配布）

12月の状況

- *7日 瑞浪市観光ボランティアガイド フィールドワーク大湫宿北半球
- *7日 「東美濃ガイドウォーキングコンテンツ企画造成
ワークショップ&ガイド研修【第1回】岩村」出席
- *13日 「大注連縄作り」
- *19日 サイクル中山道ピクニックモニターツアー来宿
- *20日 「門松作り」
- *27日 大掃除。仕事納め(予定)
- *28日～1月4日 年末年始休館(予定)

丸森訪問者

町外		町内		合計	その内 (外国関係)
大人	幼小中高	大人	幼小中高		
260	29	46	0	335	0
前年同月比					85%
R2,4月～					2290人
オープンから					34739人

(団体等)

- *14日阪急交通 名古屋支社。27名で細久手～大湫
- *19日サイクル中山道ピクニックモニターツアー(岐阜県観光連盟)11名。大湫～御嶽。
中山道の魅力的な滞在コンテンツ造成のためのサイクルツアーコースの調査。

(個人等)

- *11月下旬から、コロナ感染第3波。最近では、野外の観光ということで、中山道歩きやサイクルツーリングのお客様が目立っておりましたが、12月14日に政府がGo Toトラベルキャンペーンを全国一斉に一時停止することを決定するに至り、大湫宿を訪れるお客さんも、再び激減しました。例年のことではありますが、15日の降雪以降は、積雪と寒さのせいで客足はめっきり少なくなりました。
- *大杉倒木被災見物の来宿者は相変わらずですが、当然のことではありますが、時を経て減少しつつあります。



新春1月の企画・予定

- 『丸森の餅花 on 大杉の台座・標柱【大杉再生募金寄付】』（無くなり次第終了）
- 大湫宿インスタグラムキャンペーン #大湫にいこまいか【12月15日～2月25日】（回覧チラシ配布）
- 天野裕夫、大杉再生巨大モニュメント(案)
『エスキース～兎塔(うとう)』展示
- ※丸森 仕事始め 営業開始 1月5日(火)～

「外国人が見る日本の魅力」

東美濃の魅力」

大湫宿丸森 施設長 向井一峰

12月7日。外国から日本を訪れる観光客向けの旅行プラン作りを進める事業、特に東美濃地域の観光資源をガイドと共に歩いて観光するような企画を作るワークシヨップ、及びガイド育成の研修に行ってきました。会場は恵那市岩村コミュニティセンター。中部運輸局の主催でした。

ここ数年、日本を訪れる外国の観光客の増加は顕著なものでありました。今現在にはコロナ禍第3波の真つ只中。大湫宿を訪れる外国人の観光客もほとんどありません。しかし、このような時にこそ、コロナ収束後の観光のあり方を考えて、その時に対応していける体制を整えておくことが大事になってくるのです。当日は、外国人アドバイザーとして、共に名古屋在住で、オーストラリア出身のラジオの人気DJ、クリス・グリーン氏。スペイン出身で外国人向けの観光企画作りに詳しいエリサベス・ヨピス氏。中

津川市在住のツアーガイド、通訳案内士の浮洲和典氏の3氏によるディスカッションと、参加者との意見交換の形で進められました。

海外のお客様がこの地域に何を求めているのか、どのようなものに魅力を感じているのかを理解しなければ、喜んで来てもらえる観光企画を作ることはできません。地元の人間にとっては、ふだん目にする普通の風景、日常的な生活、何でもない当たり前の習慣が、外国から訪れる人々にとっては、とても珍しく魅力的な風景、体験になることがままあるのです。

標高510 mの高原に開かれた大湫宿とその周辺には、往時の史跡が多く残っていることに加え、里山のすばらしい自然と、そこに伝えられた伝統的な生活習慣が未だに残っています。

もちろんそれなりの工夫とアレンジは必要ですが、大湫町のコミュニティ活動で毎年行われている蕎麦打ち体験、炭焼き体験、竹箒・箕などを作る竹細工体験、わらじ・蓑などの藁細工体験、シイタケ原木栽培の菌打ち体験などは、中

山間地の伝統的生活体験型の観光企画に。周辺の植生物の観察会、野鳥観察会、ホタル観賞会、星空観察会、春の山菜採集と味わう会などは里山の自然体験型の観光企画になりそうです。

これからは、「モノ」を売るよりも「コト」を売る時代です。外国からのお客様に限らず、都会からのお客様にとっても魅力的な観光企画になるはずです。

外国語(英語)が苦手な私にとって、外国からのお客様のお相手はちよつと気が重いものであります。今回のコロナ禍は逆に執行猶予を与えられているような気分でした。

この研修で、片言でも、「伝えよう」「分ろう」と言う熱意が感じられる言葉で接していくことが大事だと言うことに気が付きました。「想いがあれば伝わる」。コロナ禍が落ち着いて再び外国の方が来られた時には恥も外聞も捨てて、身振り手振りで頑張ってみようと思えました。



おはよう 2021年 1月の集まるう会

大湫町コミュニティ
推進協議会
集まるう会

《迎春》 幸多い一年でありますように。。。。

☆「集まるう会」を、よく知りたいという声を聞いて、ここに記します。

◇「集まるう会」発足の経緯 (平成12年)

子どもの数の減少と、親さんたちの子育ての不安や、思い悩みを、みんなが相談し合
い、応援しようとする人達が集まり、主任児童委員が中心となって、子育て教室集
まるう会が発足しました。

◇「集まるう会」の実態

田舎での暮らしを大切にしたい地域の子育て教室。町の人達と一緒に力上げる
手作りの会として、共に学び共に育っている。

◇こんなこともありました。

小学生が4泊5日先生になったり、赤ちゃんも、おばさんも、小学生もいて、いつのまにか
輪になって、座談会が始まったりは、いつもの事。それから、大学生のお兄さんが、
一緒に雑巾がけをしながら、掃除の仕方を教えてくれたことも思い出です。

◇「集まるう会大湫太鼓」が、主流になって……

平成12年に発足した「子ども太鼓」(大湫小学校で始まった)が今は、地域
の太鼓として、活動しています。町外の方の人達の参加もあります。
お父さん、お母さんと一緒にたたく太鼓は、うれしいね。子供の笑顔がみられます。

◇最近、お母さんからの声……お年寄りの人達と子ども達と一緒に遊ぶ広場
があるといい。

◇成果

地元の土かい子に対して、思いやりの心が芽生えた。目上の人、大人に対しては、見習おう
とする気持ちや、あこがれ意識が増した。
みんなが、やることの楽しさを知った。

。。。。子ども達は、大湫町みんなの子どもとして、見守り育ていきたい。。。。
—— 青少年育成国民会議集まるう会新聞発表資料から一部抜粋 ——

大湫公民館・大湫コミ (大湫町コミュニティ推進協議会) からの お知らせ

	<p>リ・アップ “ひよも” だより 3月までの活動はお休みします。</p>
	<p>おしゃべりサロン『こぶし』(100円コーヒー) 当分の間お休みさせていただきます</p>
	<p>大湫宿お休み処 3月まではお休みさせていただきます。</p>
	<p>ご招待券あります 2枚 アンドリュウ・ワイエスと 丸沼芸術の森コレクション展 期間:令和3年1月5日~令和3年3月14日 場所:岐阜県現代陶芸美術館</p>
	<p>オススメ!! 大湫分室の本 『ゆかいな珍名踏切』 今尾 恵介:著 朝日新聞出版:刊 踏切には名前があるのは知っていますか。なかには「勝負踏切」や「パーマ踏切」なんて変なものもあります。謎に満ちた踏切マニアの世界にご案内します。</p>
	<p>青色回転灯防犯パトロール 1月のパトロール予定者 1月上旬:奥村 研:渡邊 弘一 1月下旬:桐井 繁:加藤 博一</p>
	<p>デマンド交通 利用者(大湫~日吉東部ルート) 11月:26便 延べ 42名</p> <div data-bbox="1037 1814 1420 2016" style="border: 1px solid blue; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"> <p>皆さん、たくさん利用 ください。</p> </div>

区長日記

引き継いで行こうではありませんか。 足立

コロナで始まりコロナで終わった令和2年は、地球人であることを再認識させられた一年した。地球規模でウイルスも情報も飛び交い、私たちの人生に大きな影響を与えてきますが、同時に私たちの幸せの要素は、平凡な日常の人と人の触れ合いの中にこそあることを、身を持って体験させられた一年でもありました。

今年はオリンピックの年であり、世界の人々との交流が拡大し、大湫宿を訪れる外国人の皆さんも急増することが見込まれましたが、コロナウイルスの状況によっては、きわめて限られた人の動きになることも予想され、前途は不透明です。

コロナとの戦いの多くは政府や研究機関・医療機関に委ねなければなりません。私たちは、地域の課題は地域で主体的に解決していく決意のもと、訪れたいと思われる大湫宿、住んで良かったと思える「ふる里大湫」を目指して、小さな努力を積み重ね、未来を生き抜く子供たちのために、

12月4日	保々宗昌墓地整備・区長会幹事会
6日	釜戸ベース企画会議
7日	ボランティアアガイド研修会
9日	琵琶峠竣工検査立合い
10日	転入対策委員会
11日	中部楽器専門学校現地立会
13日	公民館大しめ縄づくり
15日	交通安全街頭指導・中電補償立会
18日	中部楽器専門学校用材切出し・総合計画検討会
19日	釜戸ベース現地視察・大杉ワークショップ
20日	公民館門松づくり・ふれあいセンター年末清掃
21日	クラウドファンディング達成伝達会
23日	第9回大杉再生検討会議
24日	瑞浪高校地域交流事業報告会
27日	駅前商店街大杉復興祈願ライトアップ点灯式
31日	宗昌寺除夜の鐘

令和三年一月行事予定

日	曜	予	定
一	金	元旦	
四	月	仕事初め	
六	水	文化財審議会 小・中学校始業式	
八	金	定例区長・幹事会	
十	日	足又区どんど焼き	
一	月	成人の日 神田区どんど焼き	
一	火	財産区全員会議	
一	七	西・北区どんど焼き	
二	〇	大杉再生検討会議	
二	四	岐阜県知事選挙	
二	五	公民講座「黒豆餅作り」	
二	九	東濃西部地域県市職員意見交換会	
三	一	広報委員会	

不燃ごみ: 1/8(金) 資源ごみ: 1/22(金)

棚橋親子写真展

日時: 令和3年1月5日～1月30日
場所: 地域交流センターとぎわ

編集後記

あけましておめでとうございます。
今年には広報委員の方々に、迷惑をかけないようにしたいと思います。

先月号は大変でした。広報編集作業を全て終え、ほっとして広報を見ていた時に、一人が間違いを発見。「どうしようか？」訂正して汚くなるよりは、一枚差し替えた方がきれいで早い、ということになり、作業の終えた約300部のホツチキスをはじめ、一枚差し替えてまたとじ、パンチで穴を開ける。いつもの作業より一時間以上も余分にかかってしまいました。

以前には、数字の間違いを二重線を引いて訂正してもらったりと、迷惑ばかりをかけ申し訳なく思っています。

今年こそは、昨年のような事がないように、がんばります。よろしくお願いします。

M

編集発行: 大湫町コミュニティ推進協議会 広報委員会
令和3年1月1日 瑞浪市大湫町 422-1 TEL0572(63)2360
<http://okute-shuku.jp>